



別格本山 木山寺

別格本山  
木山寺

入口  
←



木山寺



壽



木山寺の諸建築  
日蓮上人の御廟所  
明徳元年（1390）  
建立  
木山寺の諸建築  
日蓮上人の御廟所  
明徳元年（1390）  
建立

木山寺の諸建築  
日蓮上人の御廟所  
明徳元年（1390）  
建立

木山寺の諸建築  
日蓮上人の御廟所  
明徳元年（1390）  
建立

木山寺の諸建築  
日蓮上人の御廟所  
明徳元年（1390）  
建立

木山寺の諸建築  
日蓮上人の御廟所  
明徳元年（1390）  
建立

木山寺の諸建築  
日蓮上人の御廟所  
明徳元年（1390）  
建立



木山寺の諸建築  
日蓮上人の御廟所  
明徳元年（1390）  
建立

木山寺の諸建築  
日蓮上人の御廟所  
明徳元年（1390）  
建立

木山寺の諸建築  
日蓮上人の御廟所  
明徳元年（1390）  
建立

木山寺の諸建築  
日蓮上人の御廟所  
明徳元年（1390）  
建立

木山寺の諸建築  
日蓮上人の御廟所  
明徳元年（1390）  
建立

木山寺の諸建築  
日蓮上人の御廟所  
明徳元年（1390）  
建立

木山寺の諸建築  
日蓮上人の御廟所  
明徳元年（1390）  
建立









龍の図  
江戸時代  
龍は、中国の神話に由来する、雲を司る神獣とされ、日本でも天孫降臨の神話に登場する重要な存在である。この図は、龍の姿を力強く表現している。

鳳凰の図  
江戸時代  
鳳凰は、中国の神話に由来する、徳を司る神鳥とされ、日本でも天孫降臨の神話に登場する重要な存在である。この図は、鳳凰の姿を優雅に表現している。

川、聖教  
江戸時代  
この図は、川と聖教の関係を表現している。川は、生命の源とされ、聖教は、人々の心を導く道とされる。この図は、川の流れと聖教の道を結びつけている。











[illegible][illegible][illegible]







[illegible][illegible][illegible]



牛頭天王  
威神院  
宝珠

114



115



〔法量〕縦 36.2 釐×横 22.8 釐  
江戸時代後期

〔法量〕縦 48.2 釐×横 35.8 釐  
明治

配布は展示 No.14 にも見ら  
れる。の記録は明治以降に



X. 版木



117 日輪大師

木版彫刻 〔法量〕縦 32.5 釐×横 13.4 釐  
江戸時代後期

日輪大師は高野山奥の院灯籠堂に舍利塔や諸神と  
ともに安置される眞形の弘法大師像で、様々な尊  
格と習合して解釈されてきた。中でも御流神道で  
は「八十通印信」の中に取り入れるなど、主尊の  
一つとして重要視してきた。木山寺に日輪大師像  
が祀られ、版木まで作られている事は、あるいは  
御流神道の影響によるか。

116

牛頭天王 善覚稲荷

木版彫刻 〔法量〕縦 33.6 釐×横 22.7 釐（牛頭）  
縦 33.6 釐×横 23.5 釐（善覚）  
江戸時代後期

天文 8 年（1539）尼子詮久判物（展示 No.37）に  
「木山感神院」とある事から室町期から牛頭天王  
を祀っていた事は確からしい。一方、善覚稲荷は  
牛頭天王社の末社善覚大明神として江戸期に入っ  
てから確認される（展示 No.11）。展示品は宝珠と  
狐の間に善覚大明神、或いは牛頭天王をはめ込む  
様式で、牛頭と善覚が同格に扱われており、善覚  
信仰を強調したものと考えられる。

118

佛説大蔵王教血盆經

木版彫刻 〔法量〕縦 12.0 釐×横 45.2 釐  
江戸時代後期

女人の出産や月経は穢れとみされ、不浄を及ぼす  
罪により地獄に墜ちるとされるが、この経を転読  
する事により、救済されると説く。所謂女人救済  
を目的とした血盆経信仰は、日本では室町期から  
広がりはじめ、江戸時代には全国各地にその影響  
が残る。「作州真葛郡醫王山木山寺所蔵」と刻字さ  
れていることから木山寺で使われていた事は確実  
で、木山寺と血盆経信仰の関係は今後検討すべき  
問題となろう。







